とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	練馬区豊玉中 1-5-10
園名	アスクとよたま一丁目保育園

1．活動のテーマ

<テーマ>

生活と音

<テーマの設定理由>

モンテッソーリ式保育に含まれる生活に必要な音の理解、文化教育の分野についてすくわくの活動を通してさらに理解を深められるようにするため。生活の中で耳にする音は子どもたちの身近にあって、それぞれ記憶もあるが音だけを聞いて何かを連想するときは各々で回答が異なり面白さを感じた。音の記憶に関しては年長児からの気付きが多くあった。すくわくプログラムの特性を活かして縦割り活動を行い、年長児から年下の子どもたちに教えたり、伝えたりしながら興味・関心が広がるきっかけになると良い。“音”そのものへの関心が高まれば日々の生活の流れが分かったり、友だちと気持ちを共有して絆になったりできると感じて、テーマを設定した。

2．活動スケジュール

2025 年 6 月から 2026 年 1 月まで行う。月に数回に分けてテーマにあった活動を実施する。月に 1 回は音楽の講師にも専門的なアドバイスをもらいながら実施を行った。

3．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・園内地図
・楽器カード（画用紙に楽器が書かれたもの）
・スピーカー
・音のビンゴ用紙
・廃材（牛乳パック・プラカップ・ペットボトル・紙コップ・ビニール袋・ラップ芯）
・楽器（鈴・カスタネット・ウッドブロック・タンバリン）
・オリンポス　　・小学校の図鑑 NEO 音楽
・よのなかの図鑑　　・せいかつの図鑑

４．探究活動の実践

【3 歳児実施分】

問いを考える：
自分の生活の中にある音を探してみよう。身近にある物の音に注目した。扉をあける時の音は？との問いに「ガラガラ」と答える子どもと「ガチャ」と答える子どもがいた。どちらも間違いではないがなんで二つの音があるのかと考えて、保育士が追及できるヒントとして二つの音はそれぞれ扉のどこから出ている音か？と問を出した。子ども同士で考えた結果、ガラガラは扉が動く音でガチャは鍵が外れる音だと気付き、子どもたちも納得する様子があった。日常の音の聞き分けは 3 歳児が取り組む音楽の活動の中でも子どもたちでも問いをつくりやすく、楽しめる内容になった。

探究活動の様子：
活動の最初は生活の音を探すことが難しく、実際に耳にはいっている音でも言葉で表現し、分類を自分の力でおこなうのは難しい様子があった。保育士が活動の輪の中から子どもたちが音に気付けるように言葉をかけたりすることで子どもたちも次々と疑問を出すことができた。楽器に触れて音を出したり、ピアノに合わせて楽器演奏をしたりする際は初めて触れる楽器に喜びをもって音を出すことを楽しんだ。少人数のグループに分かれて楽器の演奏会を開き、成果を発表する時間をつくった。絵カードを使い、楽器の種類についても知れるようにして子どもたちが楽器に親しみが持てるようにした。

ふりかえり(保育士の気付き)：
身近な生活にある音を調べるときに子どもたちによって同じ物に対して表現する音が少し異なっていることがあった。どんな音？という問いに慣れてきたあとに「その音を聞くとどんな気持ちになる？」と問いを広げることで音をきっかけに子どもたちの自発的な意見を引き出すことができた。扉の音を「いってきますの音」やインターフォンの音を「こんにちはの音」と表現していた。

【4 歳児実施分】

問いを考える：

グループに分かれて園内を探検し、音を探す活動を行う。時計や扉、玩具や床など子どもたちが自分から気付いて音を探すことに取り組んだ。4 歳児は音の聞き分けに挑戦した。集中して音を聞ける環境をつくることから始まり、自分たちも静かにして耳を澄ますようにした。子どもたちの提案で床に寝ころで仰向けになって音の聞き分けクイズに挑戦した。最後には楽器演奏の習得を目指し活動を行う。習得に向けてまずは音楽講師の演奏する姿をみたり、楽器について絵カードなどを用いて理解したりできるようにした。音楽講師はどうやって演奏してるのか見つけてみよう。など問がもてるように促した。

探究活動の様子：

音の発見だけでなく、音の種類や同じ音があるか確かめるなど音の聞き分けについて子どもたちは関心をもっていた。ゲームのようにしてオノマトペを聞いて音の正体をみつけるゲームでは、グループをつくり子ども同士で「ガラガラ」「ドンドン」など意見を合わせながら取り組んでいた。

楽器の音について探求する際には、見たことはあったけど自分で音をだしたことがないものなど、様々な楽器があり演奏を楽しんだ。演奏の前には各楽器の正しい音の出し方を講師から教えてもらいながら、「やってみよう」と挑戦し子どもたちも興味をもって聞いていた。

ふりかえり(保育士の気付き)：

音をつくる活動の際に廃材を組み合わせて楽器の作成をした。子どもたちが思い思いに楽しみながら作成した楽器をつかって小グループにわかれて演奏会を行った。他児が作成した楽器の音に関心をもって様々な音の違いを楽しんでいた。また、自分の作成した楽器の音はどんな楽器に似ているか。その楽器は何の分類になるかなど、自分で作成たものを音の種類にあてはめていく為、子どもたちも関心が高まっていくのを感じた。

【5 歳児実施分】

問いを考える：

5 歳児の音探しは保育園の中だけでなく、家庭や保育園から家までの帰り道など範囲を広げて行った。普段の見慣れた環境の中でも、音探しだけに意識をすると自分でわかっていてもそれを見つけることが難しいことに気付いた。家庭で見つけた音をリストにしたものを子ども同士で見比べると沢山みつけられた子どもと、そうでない子どもに分かれた。保育園の活動中に行う場合は集団の中でみんなで考えながら出来るが、家庭になるとひとりになるので問いを共有しても、活動の意識を高くもってもらう難しさを感じた。

探究活動の様子：

音をつくる活動で手作りの楽器を作成した際にペットボトルを使用したマラカスを作成した。そこで子どもが中に入れる物の種類によって音がかわることに気付いた。その中で「増やすと変わるよ」と中に入れるものの数の違いでまた音が変わると別の意見がでた。保育士がさらに音の違いになる要素がないか「動かし方をかえてみよう」と問うようにすると、楽器の音の出し方に気付いた。マラカスを振る・転がす・叩くなどで音が違うことに気付き、様々な方法を子ども同士で確かめ合っていた。自分たちの気付きをきっかけにできるので子どもたちからの発言も多く、音の種類を知ることや音の出し方について考える方向など様々な面での音に関する活動につながった。

ふりかえり(保育士の気付き)：

「音をさがす」「音をつくる」など大きなテーマの中で、子どもたちがその都度でどういうことが考えられるだろうと話し合い、たくさんのアイデアを出し合うことができた。

保育士の関わり方としては最初の一言目は子どもたちの発言を大切にして、その一言から後に続くテーマになるように「次はこう考えてみよう」と誘うことで子どもたちの意欲的に取り組む姿勢を支えることができた。

音のテーマから発展させて「音が無い世界」についても子どもたちの発言から探求をした。その際は手話を体験し、普段うたっている歌や、自分の思いを伝え合うジェスチャーゲームをペアをつくって実践を行った。手話では言葉をジェスチャーで伝えることと、ありがとうなどの感情も手話で伝えなければいけないことに難しさを感じ、興味をもっていた。

5 歳児は音というテーマから身近にあるものへの問いへの変換が他の年齢に比べて展開が広がっていることが分かった。

５．活動の様子が分かる写真

3 歳児

活動の様子が分かる写真　2 枚以上を貼付してください。

（HP などで公開する可能性がありますので、公開可能なものを使用ください。）

4歳児

活動の様子が分かる写真　2枚以上を貼付してください。

（HPなどで公開する可能性がありますので、公開可能なものを使用ください。）

5歳児

活動の様子が分かる写真　2枚以上を貼付してください。

（HPなどで公開する可能性がありますので、公開可能なものを使用ください。）

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	練馬区豊玉中 1-5-10
園名	アスクとよたま一丁目保育園

1．　活動のテーマ

<テーマ>

きみの「できる！」を探そう

<テーマの設定理由>

モンテッソーリ式保育の中で子どもの個性や興味、やりたいことを尊重することを大切にしている。
自己分析することで活動の幅を広げ、子どもが満足に運動遊びを楽しめるようにする。
日々の姿の中で子どもたちからの「やってみたい」を基に保育を行っています。やってみたい→できた！は子どもたちにとって自信になるが皆が同じペースで出来るわけではないと感じた。なので、すくわくプログラムを通して「どうやったらできるかな」など、どんな子どもでも「できた」に到達できるまで寄り添って活動していきたいと思い、テーマを選定した

2．活動スケジュール

2025 年 6 月から 2026 年 1 月まで行う。月に数回に分けてテーマにあった活動を実施する。
月に 1 回は体操の講師にも専門的なアドバイスをもらいながら実施を行った。

3．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）
・体力測定に必要な道具類（体操マット・マーカーコーン・縄・フラフープ・ストップウォッチ）
・短距離走の測定が出来るように机、椅子を片付けて広いスペースをつくる。
・自分の体の動きを後から確認できるように記録用の Ipad を使用する
・体力テストの結果を記入できる記録用紙
・ホッピング　小　　・ホッピング台
・A-1　鉄棒　　・鉄棒用新トレーニングマット
・ミニトンネル　メッシュ５色　　・ぷちバルーン
・小学校の図鑑 NEO　動物　　・小学校の図鑑 NEO　人間

４．探究活動の実践

【3 歳児実施分】

問いを考える：

「運動会のかけっこでいちばんになりたい」という思いをきっかけにどうやったら速く走ることができるかな？という問いに繋がった。その他にも「ジャンプで遠くまで跳ぶ」「重いものをもつ、ひっぱる」など自分の体をつかって様々なことに挑戦し、できるようになるにはどうしたらいいんだろうと問いながら実施した。

「考える+やってみる+記録してたしかめる」を子ども同士、保育士とともに考えながら実践をした。

探究活動の様子：

体操講師や保育士の見本をまず真似てみる。次は子どもたちで少数グループにわかれて一緒に考えながら見せ合ってやってみる。「どうやったら足がはやく動くだろう」「さっきよりも遠くに跳べた」など自分はどうだったのか、友だちはどうだったのかを見ながら楽しんで何回も繰り返し挑戦する姿が見られた。

子どもならではの柔軟な発想で、こうやってみる？と様々な意見が出る。保育士が「友だちはこうしたらうまくいったみたい」「広い公園でもやってみよう」子どもたちの意見をまとめながら実践と確認を行った。

ふりかえり(保育士の気付き)：

速く走れるようになりたいと思うが、どうやったらいいかという問いに答えるのは難しい様子があった。なので「足の幅は広いか狭いはどっちかな？」「手をふる？ふらない？」など選択できるようにすると考えて答えてみたり、実践しよう！と子どもたちからどっちもやってみようとする姿が見られた。問を難しくしすぎず、実践した結果を感じやすいように導くことで子どもたちも喜びを感じながら自分や他児の変化にもよく気付ける環境になった。その環境の中で子どもたちも主体的に自分が思ったことを発言しながら、やってみようと思うまでがスムーズになり、まわりに受け入れてもらう安心感を感じてその後の活動も意欲が高くなっていくのを感じた。

【4 歳児実施分】

問いを考える：

「走る」「跳ぶ」「重いものをもつ」など、自分の体を上手に使って運動遊びを行い、繰り返しやっていくことでもっと上手になろう！と子どもたちと共通のテーマとして活動に取り組んだ。現在より速く走るには体をどう動かすのか、ジャンプで高く、遠く跳ぶためにはどこに力を入れれば良いのか。普段は何気なくなっている運動でもひとつひとつの体の部位について子どもたちに問いを出し、それぞれが考えて実践して確かめるような環境をつくった。

探究活動の様子：

少人数グループに分かれて子ども同士で自分の体の動かし方を確かめながらできるようにする。グループの中で得意な子ども、上手で記録も良い子ども、いろいろ考えて発言してくれる子どもなど活動を重ねる毎に「こうしたらうまくいったよ」「友だちのをみてて」などクラスでの意見がたくさん出るようになり楽しんで実践する様子があった。3 歳児に比べ、問いが自分で出せるように保育士も「どうしたらよいかな？」「試してみる？」と答えを出す手助けをしながらも子どもたちに探求できる時間を十分にとれるようにした。

ふりかえり(保育士の気付き)：

3 歳児に比べ、力があるので速く走るための正しい動作の問いを考えるよりも力任せに何度も挑戦するような姿が子どもの中で見られていた。実践する時間の際、得意な子どもに見本をしてもらい、保育士が友だちはどんなところが良いと思ったかを問うようにして、「考えてから実践」よりも「実践してみて問う」という方向でも子どもたちが考えられるように保育士が促した。すると、見本をやっていた子どもが、自身のことながらも次は考えてやってみることで更に上達する様子があった。クラスやグループの中で互いの良い面に気付けるよう問うことで子どもたちが意識的にまわりを見るようになったり、上達を感じ喜んだりすることもあり長期間のプログラムの中で種目が変わっても、集中して取り組むことができた。

【5 歳児実施分】

問いを考える：

「走る」「跳ぶ」「重いものをもつ」など、自分の体を上手に使って運動遊びを行い、繰り返しやっていくことでもっと上手になろう！と子どもたちと共通のテーマとして活動に取り組んだ。オリンピックなどで見るような陸上競技とその記録を意識して、自分の記録はどうだろう。良い記録を出したり、伸ばしたりするにはどうすればいいだろうと考えて実践をした。各年齢に引き続き、「速く走る」「遠くに跳ぶ」「重いものをもつ、ひっぱる」為に自分の体をどう動かせばいいか問いを投げかけた。問いに対して 5 歳児は子ども同士で意見を出し会ったり、体操講師や保育士の動きを観察したり、テレビなど映像で確認する選手の動きを思い出したりして取り組んだ。

探究活動の様子：

記録用紙に 1 回目と、それ以降の記録を比較できるようにして挑戦の結果を確かめることができるようにする。自分自身の記録に興味をもち、「やってみよう」と測定することをまずは関心をもって楽しんでいた。クラス内でグループにわかれたり、ひとりが前に出て全員で見ながら考えたり探求の方法は様々で、「〇〇くんは力持ちだね」「かけっこすきだよ」などと楽しんでできた。記録を伸ばす中でグループで競って測定する方法もあり、「対戦をしてみよう」と勝ち負けを意識して「勝つ」にはどうすればいいかなど探求の幅が広がっていった。

ふりかえり(保育士の気付き)：

運動会に向けて「走る」の活動の際は、他の種目に比べて子どもたちの方からも「速く走れるようになりたい」という強い気持ちが出ていた。保育室の中での実践に終わらず、散歩先の広場などでも考えていたことを試してみたり、保育士に見てもらいながら実践してみる様子が見られていた。5 歳児には何度も挑戦して記録を出すことだけでなく、1 回の挑戦に向けて練習を何度もして、最後に記録をとる手法を行い年齢によって探求の方法を少し調整することにより、保育士も結果の変化だけでなく取り組む子どもの様子まで感じることができるようになった。

5．活動の様子が分かる写真

3歳児

活動の様子が分かる写真　2枚以上を貼付してください。

（HPなどで公開する可能性がありますので、公開可能なものを使用ください。）

4歳児

活動の様子が分かる写真　2枚以上を貼付してください。

（HPなどで公開する可能性がありますので、公開可能なものを使用ください。）

5歳児

活動の様子が分かる写真　2枚以上を貼付してください。

（HPなどで公開する可能性がありますので、公開可能なものを使用ください。）